

エチオピア

～大麦の共同研究～

在エチオピア日本国大使館

エチオピア南部諸民族州では、化学肥料の使用過多に起因すると考えられる土壌の酸性化により、大麦の収量が減少している状況です。

アワサ大学の Hewan (Ms.) 准教授は、筑波大学で博士号を取得した後、アワサ大学にて耐酸性土壌の大麦育種を研究テーマの一つとしていたところ、岡山大学で麦の遺伝資源調査や育種について研究している佐藤和弘教授と知り合い、大麦について共同研究を行うこととなりました。

佐藤教授は、日本のもち米品種「むらさきもち」とエチオピアの大麦品種をかけ合わせ、酸性土壌に耐性のある品種を開発中で、2019年の雨期から栽培試験を開始する予定です。

本共同研究の様子は、TBS テレビ「世界ふしぎ発見」（2019年1月19日）で紹介されました。

(<https://www.tbs.co.jp/f-hakken/onair/190119.html>)